

100年後の町のために、今やらねばならぬこと（第6学年）

～三池炭鉱の将来を見据えた團 琢磨の考えに学ぶ～

奈良市立済美小学校 大西 浩明

1. ESD を生かした授業づくり

(1) 単元名・学校種と学年

「100年後の町のために、今やらねばならぬこと」

～三池炭鉱の将来を見据えた團 琢磨の考えに学ぶ～ 小学校 第6学年

(2) 単元の概要

本単元は、2013年に世界遺産暫定リストに登録された「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の構成資産である三池炭鉱を取り上げ、その発展に尽くした團琢磨の考えや生き様から、今だけを考えた行動でなく、将来を見据えた考えを持つことの大切さを実感し、その実践力を身に付けることをねらいとしている。

團琢磨は、14歳で岩倉使節団の一員としてアメリカで鉱山学を学び、帰国後、三池炭山局の技師となる。当時の三池炭鉱は、石炭の埋蔵量は豊富であるものの、掘るほどに水が出てくるという問題があり、国営時代の政府を悩ませていた。そこで、團は周囲の猛反対を押し切って高価な英国のデーヴィー・ポンプを導入し、三池炭鉱の出炭量を数倍に跳ね上がらせた。また、囚人を鉱夫とするのではなく、広く一般市民に正当な賃金を支払って雇用するように、自らの進退をかけて上層部と交渉して三池炭鉱の近代化を進めた。さらに、出炭の効率化を図るためには不可欠だった大きな港の建設においては、「三池の石炭もいつかは尽きる。石炭が尽きても地元の人が生活できるように、港を築き100年の基礎とする。」と、1万tクラスの大型船が接岸できる三池港を難工事の末に完成させた。現に三池炭鉱がその役割を終えた100年後の今も、当時の姿のまま地元の産業と流通を支えている。このような團琢磨の業績は、目先の利益にとらわれず、常に将来の人々に思いを馳せて行動した結果であるとともに、三池炭鉱のことだけではなく三池の人々、さらには日本全体のことを考えたグローバルな考えに基づいている。これは、江戸末期に奈良で、川路聖謨が将来の人々のことを思って私財を投じ、寄付を募って多くの木を奈良の町に植えたのと同じように、町の発展のために、そこに生きる人たちの幸せのために、未来へのビジョンを持って、自分がどう行動することがよりよい行動なのかを考えられる題材である。

学習を展開するにあたっては、終末に100年後の自分たちの町へのビジョンを持ち、自分なら今これをしていくという具体的な行動化を図るために、前述した團琢磨の三つの業績からその意図を考えていく。そのために、社会科の学習において明治維新期の殖産興業では、石炭の採掘が当時の重要な国家事業であったことを取り上げ、当時の採炭の様子や三池炭鉱の実像について調べる。その中で、團琢磨が周囲の猛反対を押し切っておそろしく高価な英国のデーヴィー・ポンプを導入したのは、単に三池炭鉱のことだけを考えたのではなく、日本の炭鉱全体の発展を思って粘り強く交渉したことや、囚人に強制的に採炭させることの不合理さを訴えて市民の雇用を促進し、三池の産業の発展と採炭技術の進歩に寄与したことから、正しいと思ったことを行動化することの大切さを実感させたい。さらに、三池港建設に際し團琢磨が言った「石炭が尽きても、地元の人が生活できるように、港を築き100年の基礎とする。」という言葉から、二つのことを考えさせる。一つは、

石炭はエネルギー変革によってその使命を終え、炭鉱の大部分は閉山していること【有限性】。もう一つは、石炭産業なき後の100年後を考えた團のように、そこに生きる人たちや町全体のことを考えて自分の生き方を見つめ直し、自分も社会の一員として、どのように行動していくことがよりよい社会の形成につながるのかを一人一人が具体的に考え行動化していくことの大切さである【責任性】。

以上のような学習を通して、よりよい社会の形成に参画することの大切さや、その実践力を身に付けさせたいと考える。

(3) ESD の視点の明確化

【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念Ⅲ 有限性…エネルギーや産業は時代とともに変化すること。

構成概念Ⅵ 責任性…一人一人が自分の町の100年後の姿を思い描き、よりよい未来への行動化ができること。

2. ESD の視点を生かした授業の実践

(1) 単元の目標 (重視する能力・態度)

能力・態度② 未来像を予測して計画を立てる力

自分の町の100年後の姿を思い描き、よりよい町のために自分ができることを考えることができる。《未来》

能力・態度③ 多面的、総合的に考える力

自分の町の現状や発展について、様々な産業やそこに住むいろいろな人の立場になって考えることができる。《多面》

能力・態度④ コミュニケーションを行う力

自分の考えた100年後の町のためにできることを、分かりやすく伝えることができる。《伝達》

能力・態度⑦ 進んで参加する態度

自分の考えた100年後の町のためにできることを、今できることから実践することができる。《参加》

(2) 評価規準

未来・参加 関心・意欲・態度	未来・伝達 思考・判断・表現	多面 技能	多面 知識・理解
①自分の考えた100年後の町のためにできることを、今できることから実践しようとしている。	①よりよい町のために自分ができることを様々な立場に立って考えている。 ②100年後の町のためにできることを、分かりやすく伝えていく。	①明治期の石炭産業の様子や三池炭鉱の様子について、情報を集めて適切に調べている。	①團琢磨が三池炭鉱を発展させるために行った功績や、その意図について理解している。

(3) 単元の計画 (総時数5時間…うち1時間は社会科)

時	主な学習活動と内容	◇教師の支援 ◆主な評価
1	<p>1. 明治期の石炭産業や三池炭鉱について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石炭採掘は国家事業であったこと ・三池炭鉱は日本一の出炭量を誇ったこと ・三池の石炭産出は水との戦いであること ・当時の採炭作業は過酷を極めたこと ・鉱夫に囚人が使われていたこと <p>など。</p> <p>2. 明治の日本の近代化に、石炭が果たした役割について考える。</p>	<p>◇ 社会科の学習として位置付ける。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>万田坑の坑口跡 坑道へ下りるかご</p> <p>◇石炭が殖産興業には欠かせない重要なエネルギーだったことに気付かせる。</p> <p>◆明治期の石炭産業の様子や三池炭鉱の様子について、情報を集めて適切に調べている。</p> <p style="text-align: right;">《多面》</p>
2	<p>1. 三池炭鉱を発展させた團琢磨について知り、その業績について考える。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・莫大な費用を払って大型排水ポンプを設置した。 ・囚人を鉱夫として強制的に働かせるのではなく、一般市民に正当な賃金を支払って雇用した。 </div> </div> <p>團 琢磨 (1858～1932)</p> <p>2. 團琢磨は、なぜそのような施策を講じたのか、その意図について考える。</p>	<p>◇「この三池での成功は、日本各地で水に悩まされている多くの炭鉱の先鞭となるはず。」と唱えた團の言葉を紹介する。</p> <p>◇当時の採炭労働の過酷さを紹介し、なぜ囚人を使わなければならなかったか考えさせる。</p> <p>◇團琢磨の考え方は、自分たちだけの利益や目先の利益だけを考えたものではないことに気付かせる。</p> <p>◆團琢磨が三池炭鉱を発展させるために行った功績や、その意図について理解している。</p> <p style="text-align: right;">《多面》</p>
3	<p>1. 三池港を築くにあたって團琢磨が言った言葉の意味について考える。</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>「石炭山の永久などということはありません。築港をやれば、そこにまた産業を興すことができる。築港をしておけば、いくらか100年の基礎になる。」</p> </div>	<p>◇100年経った現在では、石炭はその役割を終えていることを確かめる。</p>

	<p>2. 團琢磨の三池に対する思いについて話し合う。</p>	<p>◇團は、港を建設することでどんな三池の未来像を描いたのかを考えさせる。</p> <p>◇100年経過して、現在も使われている三池港の現状を紹介することで、團の願いが現実となっていることに気付かせる。</p> <p>◆團琢磨が三池炭鉱を発展させるために行った功績や、その意図について理解している。</p> <p style="text-align: right;">《多面》</p>
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 自分たちの町の「100年後のために、今やらねばならぬこと」を考えよう </div> <p>1. 自分たちの町の現状を省みて、その課題について話し合う。</p> <p>2. 自分たちの町のよりよい100年後の姿を思い描き、そのために今自分がやらなければならないことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100年後の自然環境 ・ 100年後の産業や交通環境 ・ 100年後の人口や外国とのつながり ・ 100年後の防災や安全 ・ 100年後の町並みや人と人の関係 	<p>◇様々な視点や様々な人の立場に立って、多様な課題があることに気付かせる。</p> <p>◇團琢磨のような、100年後のよりよい町の姿と、そのために自分ができる実現可能で具体的な方策を考えさせる。</p> <p>◆よりよい町のために自分ができることを様々な立場に立って考えている。 《未来》</p>
5	<p>1. 前時に各自が考えた「今やらねばならぬこと」について話し合う。</p> <p>2. 最終的に決めた自分の「今やらねばならぬこと」の行動計画を立てる。</p>	<p>◇お互いの考えを聞き合う中で、自分の考えを深めたり高めたりできるように助言し、より具体的な行動ができるようにする。</p> <p>◇今日からできること、今すぐにできることと、数年後にすること、20年後にすること…など、時間経過にそって計画を立てさせる。</p> <p>◆100年後の町のためにできることを、分かりやすく伝えている。 《伝達》</p> <p>◆自分の考えた100年後の町のためにできることを、今できることから実践しようとしている。 《参加》</p>